

御所湖隨想

H24年8月 No.44

盆花

以前はと言っても数十年前の事です、雫石ではお盆に供えるお花は周辺の山野から調達していたそうです。この辺では「ボンバナ」や「アワバナ」などの名前と呼ばれています。前号同様に、「日本植物方言集成」(八坂書房発行)で調べてみますと、方言名としてボンバナと呼ばれている植物は35種類もありました。ここ雫石では「キキョウ」を指します。小岩井農場内にも「盆花平」という地名があり、かつてはキキョウが咲いていたそうです。入社当時に一株だけ見たことがあります。また、私が生まれた宮城県気仙沼では、「ミソハギ」をボンバナと呼んでいました。小学校の頃「ボンバナ」を採ってこいと言われて、田んぼの畔に探しに行ったことを思い出します。

もう一つの「アワバナ」ですが、これに該当する植物は5種類あり、この辺では「オミナエシ」を指します。ポロポロと落ちる小さな黄色い花が粟粒に似ているのでこう呼ばれるようです。今では「ボンバナ」や「アワバナ」を採ってきてと子供に頼んでも何のことやらわからないだけでなく、そもそも山野ではほとんど見かけることもありません。

「キキョウ」は希少植物にさえなっております。「オミナエシ」は御所湖周辺にも咲いていますが、本数はわずかです。「ボンバナ」や「アワバナ」はもう死語なのでしょうか？

なお、オミナエシに似て白い花を咲かせるオトコエシは、遠野地方では「ヘエゴメバナ」と呼んでいます。稗・米・花(ひえ・こめ・はな)で、稗と米を混ぜて炊いた飯に例えているそうです。



キキョウ(栽培)



オミナエシ



オトコエシ

参考

「ボンバナ」...アキノタムラソウ、ウツボグサ、エゾミソハギ、オカトラノオ、オトギリソウ、オトコエシ、オミナエシ、カルカヤ、カワラナデシコ、**キキョウ**、クサキョウチクトウ、クサレダマ、コガンピ、コマツナギ、サルスベリ、シキミ、センニチコウ、センニンソウ、チダケサシ、ネジバナ、ノハナショウブ、ヒガンバナ、ヒメシオン、ヒメハギ、ヒャクニチソウ、フシグロセンノウ、フジバカマ、ホソバノヒメトラノオ、ミズギボウシ、ミゾソバ、ミソハギ、メガルカヤ、ヤブカンゾウ、ヤブラン、ワレモコウ

「アワバナ」...アキノキリンソウ、オトコエシ、オニユリ、**オミナエシ**、ヒヨドリバナ